



2005年1月1日
発行
山梨大学
医学部附属病院



目先の利，将来の得

病院長 熊澤光生

新年あけましておめでとうございます。

昨年は4月に法人化され、新卒後研修が始まり、12月に日本医療機能評価機構による実地審査を受けるという病院にとって試練の年でした。本年もいくつかの越えなくてはいけない難関が予想されています。皆で力を合わせて乗り越えましょう。

病院が運営されていく過程で右にするか、左にするかの判断を問われることがしばしばあります。その際「時間軸を加えた利害得失」の観点から考慮することが極めて重要になります。法人化され、年度末に病院収支が赤字になることは許されません。限られた予算と人員で、何に力を注ぎ、何を現在我慢して後まわしにするかの判断をしなければなりません。具体例を示します。

「安全管理と感染対策」…後まわしは許されません。

「環境整備」…壁紙の張り替、清掃、絵画、花、樹木など。経費節減対象にしやすいが、後でじわりとマイナス効果が来そうです。

「患者プライバシー保護」…施設の改築など経費がかかり、長期の得も見え難いが、今や必須事項です。

「医療機器の整備と新規購入」…診療報酬増に直結するものとそうではないが機能維持のため必要なもの、どちらを優先するのか。

「研修出張、学会参加」…各職種職員の講習会参加や医師の学会参加を診療機能の低下を理由に制限するのか、見え難い医療の質の維持や意欲の向上を重んじて奨励するのか。

「医師の兼業」…制限して院内の診療業務に費やす時間を高めるよう変えたいが、給与を上げないで行うと有能中堅医師の流出が生じてきそうです。

「雇用職員の増」各部門から人員不足の訴え、雇用増の要求が多数出されるが、収入増の観点で検討するのか、あるいは病院機能向上、安全維持の観点で比較検討するのか。正規職員待遇の新規採用は退職金引当金の積み立てという長期の失をも考慮しなければなりません。

「情報開示」…医療ミス患者に伝えて生じる目の痛手か、隠すことにより生じ得る将来の大きな痛手か。後者であってはいけません。

病院の将来のため目先の利害にとらわれるのを止めましょうなどと、単純には云えません。皆で意見を出し合って、限られた予算と労力をより有効に活用しようではありませんか。

良い年でありますように。

(2005年1月元旦)

科長就任にあたって



血液内科長 小松 則夫

この度、平成16年10月1日付けで血液内科長に就任いたしました。山梨県内に血液内科診療の中核をなす専門施設の設置要望に答えるべく、新設されたものと理解しております。

血液内科は、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの腫瘍性疾患を中心に、再生不良性貧血や骨髄異形成症候群のような造血障害性疾患、さらには骨髄増殖性疾患、自己免疫性血液疾患など、多種多彩な血液疾患の診療を担当します。

血液の領域では造血幹細胞移植術を含めた新しい治療法が次々と開発され、治療成績は飛躍的に向上しています。例えば、最近、ある有名な歌舞伎役者が煩った急性前骨髄球性白血病ですが、以前は多くの方が出血で早期に亡くなりましたが、今ではビタミンAの誘導体の経口投与によって5年生存率は6割を超えています。慢性骨髄性白血病では原因分子が明らかとなり、その機能を特異的に阻害する薬剤、すなわち「分子標的」薬剤が開発されました。今では臨床の場で広く用いられ、劇的な効果を上げています。

「白血病は不治の病」と言われた時代は確実に終わりを告げようとしています。しかしこのような飛躍的な進歩を遂げている一方で、現代医療をもってしても治癒・治療困難な血液疾患の患者さんは依然として多いことも事実です。私たちはそのような患者さんに対しても「心のケア」をも含めた全人的医療を実践して参りたいと考えています。

国立大学法人化、卒後研修必修化、包括医療など大学病院を取り巻く環境は大きな変革期を迎えておりますが、こんな時期だからこそ、医学・医療の本質を見失うことなく、「心温まる医療」を心掛け、大学病院としての役割、すなわち造血幹細胞移植術を含めた「高度先進医療」を実践していく所存であります。さらには近未来の医療を担う若い医師の養成にも全力を注ぐ覚悟であります。皆様方の暖かいご支援とご指導を宜しくお願い致します。

「新潟県中越地震に係る医療チーム」派遣について

精神科神経科講師 碓氷 章

山梨県が派遣する保健医療救護班（心のケア）の一員として、11月11～14日の間、新潟県川口町に行って参りました。大学からは私の他、山主・大久保看護師、初見総務課長、窪田学務係長の計5名、これに県から保健師2名、事務1名が加わった総勢8名の編成でした。10月23日の本震から3週間経つというのに、震度7の地であった川口町は災害の爪痕がいたる所で生々しく残っていました。余震も続き、我々の滞在中も地面から突き上げるような地震が何度かありました。住民の方々は避難所生活を続け、ライフラインも電気だけが回復しているという状況で、自衛隊が中心になって生活を支えていました。

川口町には全国から一般医療6、心のケア4、保健師14チームが派遣されており、地元保健師が中心となって1日2回全体ミーティングが行われていました。この相互連絡の良さが、川口町の救護活動の特徴だったと言えます（他市ではミーティングは週1回と聞いています）。保健師チームから提供される情報や心のケアチーム独自の避難所訪問から問題を拾い上げ、それに対応するのが我々の主な仕事でした。

余震があると再入眠できないなど不眠の訴えが多く、他に、家に帰りたくないというお子さん、些細な音にも敏感で感情が不安定になっている方、体調を崩した後に困惑してしまった高齢の方、長期避難生活の心労を訴える方、生計立直しの目処が立たず不安を抱える方、豪雪地帯のため今後の雪の恐怖を話す方などがいらっしゃいました。状況は時々刻々変化していきませんが、今後の長期的対応が必要と感じました。



保育園の庭に出来た避難所風景



朝のミーティング前の様子

医療安全管理に関する国立大学附属病院相互チェックについて

副病院長 安全管理室長 星 和 彦

今年も国立大学法人大学附属病院間の相互チェックが行われました。

当山梨大学は、東北大学医学部附属病院を10月6日に群馬大学のメンバーとともにチェックすることになり、私（星）を含めて7名が仙台に伺いました。山梨大学医学部附属病院のチェックは山形大学の担当で行われ、10月29日に倉智副院長以下6名がおみえになりました。本年度のチェックの重点項目は、(1) 研修医に対する安全管理体制、(2) 診療記録の管理およびその内容、(3) インフォームド・コンセントの徹底、(4) 放射線部における安全管理体制、の四つでした。東北大学は、30年ほど前から研修医の初期研修を大学で行わず、関連病院に任せるという方式をとってきたため、確かにスーパーローテートに対する対策は後手に回っている印象は免れませんでした。しかし、やはり歴史のある病院であり医療安全管理対策をはじめとする病院の管理運営には参考になる面が多々ありました。特に、いたずらに書類を増やして業務内容を煩雑にするだけでなく、思い切って合理化に踏み切る手段も学ぶ必要があるのではないかと思います。

山形大学が当病院に対して提出したチェックコメントを下記に記します。

(1) 研修医に対する安全管理体制

よかった点 : ①スタッフマニュアル特に携帯版を作り、それを全員が携帯していることはすばらしい。②研修医の研修内容とそのスケジュール管理の充実。

改善すべき点 : ①研修医の勤務時間が長い。②「研修医が単独で行ってはいけないこと」が明示されているが、「行ってはいけない」ではなく「指導医のもとで行うこと」と表現法を変えるべきであろう。

(2) 診療記録の管理およびその内容

よかった点 : ①昨年度指摘を受けた退院時サマリーの不備が解消されている。②カルテの書き方は概ね合格点。

改善すべき点 : ①一部カルテの不備、例えばサインの漏れ、時刻記載の漏れ、理学的所見の記載不備。②看護記録も同様。

(3) インフォームド・コンセントの徹底

よかった点 : ①説明内容の記載は合格点。②手術患者搬送時の注意事項がよく守られている。絆創膏の過敏症チェックなどは山形大学も参考にしたいとのこと。

改善すべき点 : ①手術同意書に血栓症予防に対する説明記載がない。②学生の診療参加に対する同意書がほしい。

(4) 放射線部における安全管理体制

よかった点 : ①検査時のマニュアルはよく整備されている。②被爆線量のチェックやアラーム機能はすばらしい。③治療患者の複数によるチェック。

改善すべき点 : ①患者間違い防止のため方策にもう一工夫がほしい。②造影剤使用時に同意書を用意すべきではないか。③機器の保守点検を再確認。

等々のコメントが寄せられました。大方は合格点、むしろお褒めのコメントをいただいた点も多かったのですが、ご指摘いただいた点はやはり早急に検討し改善策を講じなければならないでしょう。関係部署と相談し出来る部分から改善を進めたいと考えております。皆様のご協力が必要です。よろしくお願いたします。

菊の展示について

医事課医事・会計GL 仲 嶋 宏 治

本院の秋の風物詩として定着しつつある菊の展示を、平成16年10月22日（金）から平成16年11月26日（金）の一月間実施しました。甲府市国母在住の秋山安雄様から丹精こめて栽培された「泉郷玉手箱」や「国華華芳菊」等13種類の23作品をご提供いただき、展示いたしました。特にだいたい色とおうど色の作品は、来院された方から好評でした。秋山様のご配慮にお礼申し上げます。ここで、秋山家の裏技を紹介させていただきます。「菊は観て終わりじゃないだよ。菊の花弁を良く水洗いしてから、2回程湯がいて灰汁を抜き、もう一度湯がいて水洗いをして、水気をしぼれば菊の刺身の完成だよ」「これをポン酢で食べれば美味だよ。」「中でも紫色が、コリコリして、見た目も薄い桜色になって最高だね。」くれぐれも栽培した方の了解を得た上で、お試してください。



院内褥瘡対策マニュアルおよび研修会について

褥瘡対策チーム 皮膚科形成外科 助手 岩本 拓

褥瘡対策チームが昨年度実施したアンケートの結果、褥瘡対策マニュアルの作成を求める意見が多かったことから、このたび、褥瘡対策チームは院内褥瘡対策マニュアルを作成・配布いたしました。これに合わせて、このマニュアルについての勉強会を8月19、26日に行いました。

マニュアルに記載された、予防・除圧方法、栄養管理、全身・局所治療方法は、あくまで一般論であり、必ずしもこの患者様にとってのベストのケア・治療方法という訳ではありません。

平成14年10月からの褥瘡対策未実施減算以降、全国的に偶発性褥瘡の発生は減少傾向にあり、またd2(Ⅱ度)褥瘡の治癒期間も短縮していることが報告されています(H16年9月日本褥瘡学会、札幌)。折しも、日本褥瘡学会では、褥瘡の予防方法から薬剤、被覆材、外科治療、理学療法等のEBMメタアナリシスを進めており、来年度中には学会としてのケア・治療法ガイドラインを発表する予定であるとのことでした。今後、偶発的褥瘡の予防、ケア・治療はガイドラインに従ったものへと移行していくと考えられます。それにもかかわらず発生する「褥瘡」とは、本院での発生する褥瘡事例で典型的に認められる様に、原疾患の進行にともなう全身状態の進行や悪化に伴うものが多くを占めるようになると予想されます。その様な場合のケア・治療方法は、定型的な、いわゆるマニュアル的には対処しきれないケースが、今後増加すると予想されます。

今回配布したマニュアルをいわば叩き台として、個々の事例毎、個々の患者様毎にテラー・メイドでケア・治療方法を立案・作成、そして、対策チームにフィードバックして頂けると幸いです。

「国立大学病院事務専門研修会」

経営企画課 総務・経理グループ 佐藤 康樹



去る11月15日～19日に東京大学医学部附属病院において開催された「国立大学病院事務専門研修会」に参加してまいりました。研修会の中では、高齢化社会となる今後の医療制度の問題点、病院経営戦略の手法並びに経営分析方法、患者様の立場に立った医療環境の確立、国立時代組織からの脱却等のさまざまな講義を受講いたしました。

全ての講義が日々の業務の中では自分として見出せなかった事柄であったため、純粋に新鮮な感動がありました。その中でも特に印象深く残っているのは、香川県坂出市立総合病院長の講演の中で、「日常のなかに埋没してはいないか、意識改革ではない、意識覚醒である」という言葉でありました。これは私自身の事であり、ここに記述するのは恐縮ではありますが、日常業務さえ問題なくこなしていれば良いという考えが心中の奥底、いや、すでに表面にあり、自分が病院のために何をしているのか、すべきなのか、どうすれば組織がさらに良くなるのか、患者様は喜びを感じるのか、そんなことはどちらでも良くなっていったように思います。この埋没して眠っていた自分を少しでも掘り起こせたことは大変よかったと感じております。今後は業務の中で、必ず「これで良いのか？」を問い続けながら埋没しない自分を作っていくつもりです。

また、法人化後の初めての開催であったため、各大学病院がどのように新しい取り組みを行い生まれ変わろうとしているのかという事についての情報交換も行っていました。規模が異なったり、地域性もありますので一概にここで比較は出来ませんが、今回集められた大学病院のほとんどは既に先程の「意識覚醒」をされ、あの東京大学でさえも患者様を取り込むさまざまな改革に着手していました。ただし、まだ各大学病院とも着手したばかりであり、苦労している事はどこでも同じような事でありました。スタート地点ではまだ一緒に並んでいる印象であります。しかし今後は職員一人一人が「埋没しない意識」を持つか否かによりスタートからの差が開いてくるように思っております。

患者さんの番号による呼び出し

医事課補佐 功 刀 清 雄

病院機能評価では、プライバシー確保への配慮として「患者の呼び出しに配慮されていること」が評価項目として上げられています。本院では、患者さんへの配慮として11月8日から「番号による呼び出し」を実施しました。開始にあたり、準備期間が短かったこともあり、説明要員の配置、物品等の準備及び職員への周知徹底等が懸念され、また、何より患者さん側の対応が心配されました。実際、受付及び待合では医事課職員と外来看護師との協力体制により対応を図りましたが、やはり患者さん側に混乱はあったようです。特に、高齢者や身体が不自由な方に対しては「番号による呼び出し」が難しい場合が多く、今後も特段の配慮が必要とされます。

開始以来、患者さんから①患者を番号で呼ぶのは失礼である、②番号札を持ち続けるのは苦痛である、③番号に注意を向けていなければならないのは疲れる、等のご意見がありました。改善を図る必要はあると思います。その一方で、良い評価もいただきました。

将来的には、システム化され、番号券の発券あるいは診察券への機械操作による番号表示、番号表示盤の設置等へ代わるものと予想されますが、プライバシー確保のためとはいえ、受付及び待合の雰囲気が無味乾燥化してしまうような気がするのですが・・・。



再来受付機周辺での説明風景

新しい床頭台

経営企画課長 笹 川 義 彦

11月29日から12月1日までの3日間で、開院以来使っていた病室床頭台が一斉に更新されました。

この床頭台は、財団法人里仁会の協力を得て更新されたものですが、細部の仕様決定に当たっては、大村部長始め看護部の皆さんが、常日頃の経験をもとに入院患者様の立場に立ったきめ細かな検討をしてくださいました。

病室のアメニティは、治療や看護の機能を十二分に考慮するとともに、患者様が生活する場として如何に満足できる環境であるかが何よりも大切です。

今回の床頭台更新によって、患者様はご自分のベッドサイドにロッカーを持つことになりました。引出しボックス等の収納力も格段に向上しました。新しくして綺麗なことはもちろんです。これまでは申し込みの都度据付けていたテレビも液晶テレビが常設され、患者様はICカードを購入して何時でも利用することができます。

小型冷蔵庫も併せて設置されています。

入院中の患者様は何かとご不便が多いかと思いません。そんな不本意で辛い入院生活だからこそ、少しでも快適に療養していただきたいと思えます。

「病気は本当に辛かったけど、ドクターは親身に話をきいてくれたし、看護師さんは優しいし事務の人にも親切で・・・建物はちょっと古いけど掃除は行き届いていたし、床頭台も綺麗で使いやすくて・・・梨大病院はすごくいい病院！」退院された患者様からは是非そんな風に言われたいものです。



ICカード発券機

山梨大学看護学会第5回学術集会開催

山梨大学看護学会 第5回学術集会準備委員 看護部管理室師長 井上 貴美

去る11月27日（土）に学術集会長である中村美知子先生のもと、第5回山梨大学看護学会が盛大に開催された。18演題と発表が多く、2会場に分かれて発表された。質疑応答も活発にあり、回を重ねるごとに充実した学会に成長してきている。特別講演は女子栄養大学学長である香川芳子先生をお招きし、「社会に貢献する実践家の育成—健康・教育・研究—」というテーマの講演がされた。基本的な食事管理や健康管理についてのお話であり大変興味深く、熱心に拝聴した。今年度も研究奨励賞の授与があった。院内からは6階西病棟、7階西病棟、7階東病棟の3篇の看護研究が受賞した。奨励金はそれぞれ5万円であり今後の研究に役立てようと考えている。さて、来年の11月26日（土）予定で開催される第6回山梨大学看護学会学術集会の学会長は看護部の大村久米子看護部長に決定している。事務局も看護部に移動するため、準備を良くして盛大な学術集会になるようがんばりたい。



会長挨拶



授与式

附属病院外来玄関スロープ改修工事・外来棟2階屋上緑化

財務管理部施設企画課 建築グループ 内藤 正美

従来部分的となっていた外来診療棟玄関内部を全面的スロープに改修いたしました。改修スロープの勾配は前より緩やかに改善すると共にノンスリップ化し、左側段差場所には手摺を設置致しました。来院される患者様により優しい病院になればと期待しています。「一人ひとりが満足できる病院」を目指し、今後ともハード的改善に寄与したいと考えています。



外来診療棟中庭1階屋上（2階廊下から見られます）に、業者の協賛を得て「屋上緑化」を試験的に実施させていただきました。「屋上緑化」は都市部の環境対策として脚光を浴び、東京都では一定規模以上の施設には義務づけられているほどです。

この「屋上緑化」により病院環境改善効果と共に省エネルギー効果や屋根材の劣化防止が期待され、今後の施設整備の中で実施を前提に検討を進めています。また、今の時期には花が咲いていませんが、春先には赤い花のパーベナ・ガーデンピーナス、および白い花のカラミンサ・ネペタが患者様の気持ちを少しでも和げていただければ幸いです。

病院機能評価受審について

経営企画課経営企画G係長（病院経営管理部） 名取 一也

病院機能評価の受審に際し、受審準備と当日の対応にご尽力頂き、誠にありがとうございました。皆様の日頃の協力とご努力により、3日間の訪問審査を無事終了することができました。

なお、今後は全体講評を基に改善に努めて参りたいと考えておりますので、引き続きご協力方お願い致します。

ご意見、自主投稿をお待ちしています。(yukinori@yamanashi-ac.jp 経営企画課内線2021)